

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2016年11月30日

第3号

教育指導課教育課程係

児童生徒の多様な見方・考え方の育成を目指して

■ 仙台市立高砂小学校（研修会）

■ 仙台市立加茂中学校（授業研究）

10月28日（金）、仙台市立高砂小学校（佐々孝校長先生）を会場に、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」をテーマに校内研修会が行われました。当日は、教育指導課職員が講師として伺い、アクティブ・ラーニング導入の経緯、アクティブ・ラーニングの目指すもの、指導の実際等について高砂小学校の先生方と研修を行いました。研修の中では、改めて目指すべき資質・能力の三つの柱について確認しました。

- 何を知っているか、何ができるか（生きて働く知識や技能）
- 知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）
- どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力など）



校内研修会の様子

先生方が日々の授業づくりにおいて大切にしている視点を出し合いながら、児童の資質・能力の育成に向けた授業づくりのポイントについて、具体の教科をもとに整理していきました。

また、11月7日（月）には、仙台市立加茂中学校（高倉祐一校長先生）において授業研究が行われました。菅原香織先生が「幻の魚は生きていた」を題材に1学年国語の授業を行いました。説明的文章の読み取りを通して、本文の要旨を捉え、筆者の考えと自分の考えを比較しながら深めていくという指導計画に基づき、授業実践しました。菅原先生は「主体的・対話的で深い学び」を実現するために授業において思考ツール（ベン図）の活用を行いました。

【思考ツール（ベン図）の効果】

- ・話し合い活動を進める中で、生徒が自分の考えと友人の考えの共通点や相違点を整理し易くなっていた。
- ・友人の考えとの共通点や相違点を書き出すことにより、自分の考えを振り返り、新たな自分の考えをまとめることができた。



思考ツールの活用

授業検討会後に、市教育センター高橋彰吾指導主事から「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて講話をいただきました。各教科で習得した「見方・考え方」を働かせ、「自分で問いを見つけ解決する」「自分の考えを形成し表現する」「考えや思いを基に新たに構想、創造する」ことに向かう「深い学び」の実現のために、授業改善活動を行っていかねばならないとのお話がありました。

今回の授業でも、段落構成・使われている表現に着目させ、筆者の考えを理解し、自分の考えをまとめるなど、これまでの国語の授業で生徒が身に付けた「見方・考え方」を働かせたものとなりました。